

# 中国海軍水上艦の現代化

漢和防務評論 20190511(抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

中国海軍は、空母が注目を浴びがちですが、空母艦隊を支援する現代化した艦船も続々と建造されています。  
今日の記事は、艦隊の中核となる 054A 型フリーゲート艦が 30 艘建造され、従来の旧式護衛艦等にとって代わる話です。  
外見も西側のデザインを取り入れ、中国製とは思えない洗練されたスタイルになっています。  
記事は、作戦時、台湾海軍と直接対峙する中国艦は 054A であろうと推測しています。

平可夫

29 艘目の 054A 型ミサイル護衛艦 (FFG) が進水した。30 艘目は建造中である。KDR は、2003 年に黄埔造船所で建造中の 054A の写真を入手した。また当時中国がフランス (現在はドイツの会社) から輸入しかつ技術移転したディーゼルエンジンの生産数から、第一段階の建造数は 15 艘と判断していた。15 年経過し、30 艘建造された。これは年平均建造数が 2 艘、総トン数は 12 万トン (標準排水量で計算) になる。このように大きな艦船建造計画は、中国歴史上初めてである。



054A 型 FFG” 玉林” (VLS から HQ-16 対空ミサイルの発射)

「写真は SeesaaWiKi” 日本周辺国の軍事兵器” から」

KDR は次のように考える : 30 艘目の 054A を建造したことは、中国海軍の現代化が基本的に完成したことを意味する、と。艦年令も 15 年を超えず、主戦装備

は基本的に欧州並になった。KDR は、2002 年に 052B ミサイル駆逐艦 (DDG) の建造を開始した時点で、中国海軍の現代化が開始されたと見ている。当然、たとえ 2 艘の 052C が当時実験的性質のものであったとしてもである。

054A 建造の意義は重大である。中国海軍は、旧式の”旅大”(051 型)、“江湖”シリーズで構成された中国海軍を 054A に更新する。現在、わずか 2 乃至 3 艘の”旅大”級ミサイル駆逐艦がなお就役中であるが、これらは訓練用に供されるかもしれない。

ピーク時には、中国海軍は、全部で 17 艘の”旅大”級を有していた。標準排水量は 3400 トン、1 番艦は 1970 年に建造開始、以後改修を重ね、少なくとも 3 つのタイプの (大、中) 改修型がある。総トン数は 57800 トンである。これらの艦船の総合作戦能力は、火力においても、対潜能力においても、電子作戦能力においても、現代化した海戦を戦えるものではなかった。

”江湖”級ミサイル護衛艦 (FFG) の建造は 1975 年から開始され、少なくとも 3 種類の大改修型がある。標準排水量 1600 トン、全部で 35 艘建造された。総トン数は 56000 トンである。この 2 種類を合計すると 52 艘になり、総トン数は 11.38 万トンである。

したがって、30 艘の 054A の総トン数は、上述の 2 種の旧式艦船の総トン数を超える。数については、30 艘の 054A (標準排水量 4000 トン) があれば、中国海軍の遠海防御戦略の需要は満たすことが出来る。中国海軍は、ほかにも保有或いは建造中の 6 艘の 052C (総トン数 36000 トン)、19 艘の 052D (総トン数 133000 トン)、6 艘の 055 (総トン数 70000 トン)、2 艘の改良型 052C (総トン数 10000 トン)、4 艘の改良型 956EM (総トン数 26000 トン)、1 艘の改良された 051C 型 DDG (6000 トン) があり、現代化された駆逐艦の数としては 38 艘、総トン数は 281000 トンに達し、世界第二位の海軍力となる。

艦対艦ミサイルは、型式が 4 種類ある : YJ-18、YJ-12、YJ-83、YJ-62 で、種類、射程とも米海軍を超えている。残る問題は、実戦能力と電子戦能力である。アンテナの変化を見ると、054A の衛星通信アンテナ及び電子戦アンテナは常に改良されているようだ。

艦対空ミサイルの種類は、HQ-9、HQ-16、HQ-10 があり、米海軍の保有する武器体系は中国海軍もまた同様に保有している。当然、全ての武器が有効に運用されるためには電子戦対抗能力が不可欠である。この方面の技術は、米国が最先端を行っている。052C/D のレーダーシステムは、基本的にアクティブ・フェーズド・アレイ方式である。垂直発射器は 2 種類ある。ホットローンチとコールドローンチの併用発射は中国海軍が始めて行った。

KDR は 054A の生産進度に特に注目してきた。数量から見ると、054A は建造された数が最も多い水上艦である。長年話題になった 054B は小型アクティブ・フェーズド・アレイ・レーダーと HQ-16B 艦対空ミサイルを搭載していると言われていたが、未だに顔を見せていない。その理由を分析すると、経費の問題があり、主に 055、052C/D 及び空母の建造に資金を優先させた可能性がある。054A 自身は末端を支える艦艇群であり、現在の装備で足りるのであろう。KDR の予測では、今後 054A は逐次改良され、054B/C にグレードアップすると思わ

れる。コストは低く抑えられる。

このほか、水上艦全体の数量、建造過程から見えることは、中国海軍の戦略の変化である。早期の”近海防御”から近年”遠洋防御”へと向かい、或いは”遠洋進攻”へと段階的に活動域が拡大している。

読者は気付いたであろうか？KDR が 056 ミサイルパトロール艦の数を計算に入れていなかったことを。1400 トンの 056 は、中国海軍がすでに 24 艘以上装備している。これらの艦は、實際上中国の沿岸警備隊を構成している。戦区の近海防御を担当しているが、防空能力が不足しているため、陸上のレーダー、地対空ミサイルの支援を受けざるを得ない。

したがって水上艦の数、質から見ると、現在の中国海軍は 15 年前に比べると大幅に強化されている。言い換えれば、2002 年の 052B の出現から通算すると、中国は 16 年間で海軍の現代化を完成した、と言える。潜水艦部隊も含む。当然、対潜能力は、日米に比べれば大幅に不足しているが。

現在の 054A の作戦運用を見る。現在展示された訓練の写真を見ると、明らかに多用途であることが分かる。

A. 遠洋防御、遠洋進攻時には、054A は 052C/D 型 DDG 或いは空母と一体になって聯合艦隊を構成し、南シナ海、沖縄海溝に進入する米艦隊に対する戦区隔離を実施する。

B. 上述の水上艦と一体になって戦略水道、航路、海峡の封鎖を行う。したがって 054A は、対馬海峡、津軽海峡、バシー海峡に頻繁に出現することになる。各艦隊においては、054A の数が最も多くなるはずである。

C. ”近海防御/進攻”時、054A は 052C/D DDG の電子・レーダーセンサーの支援の下、対台湾作戦においては制海権を獲得するために活動する。したがって台湾の水上艦と対峙するは、054A が主力となる。その理由は、その他の大型 055、052C/D は、主として戦区隔離作戦、及び日米海軍に対する遠洋作戦に使用されるからである。したがって各艦はそれぞれ艦隊防空の能力を具備する。しかし 054A が搭載する HQ-16 は個艦防空用であり、艦隊防空は 052C/D が担うことになる。

一旦開戦となれば、台湾海軍の正面に立ちはだかる主力は 054A であり、後者は南北二つの方向から台湾本島封鎖作戦を実施する。台湾海軍の PERRY 級及び康定級ミサイル護衛艦はこれと決戦を交えることになる。数の上では、054A と 052C/D を加えると、中国海軍が圧倒的に優勢である。垂直発射の艦対空ミサイルの射撃速度は、054A が明らかに速い。輸出用の説明書によると、1 秒間に 1 発である。しかしシングルアーム式艦対空ミサイル発射装置は、ロシア製で 6 秒に 1 発である。

YJ8-3 艦対艦ミサイルの輸出型は C-802A であり、射程 180KM、早期型はフルデジタルの火器管制システム、シーカーではなかった。これらの問題は改修されたであろうか？後期の改修型は赤外線画像誘導装置を搭載し、ミッドコースは衛星誘導である。逐次デジタル化されているらしい。

総合すると、旧式過ぎる台湾海軍の水上艦が、完全な空中援護を得られないまま、054A と対決した場合、技術面でかなり劣ることは明白だ。

D. 海上から中国本土を防御する場合、054A は近海の 056、遠海の空母、055 等の聯合打撃グループと連携し、三重の海上防御体系を構成し、米国艦隊に対し、戦区隔離を実施する。1000KM 以内の海上防御主力は 054A であり、この距離は米海軍巡航ミサイルの射程内である。

したがって 054A の大量就役は、過去の戦略思想と現在の戦略思想を接続する作用をする。すなわち遠海防御/進攻と、近海防御/進攻の戦略思想を接続させる。沿岸防御については、完全に 056 ミサイルパトロール艦の責任である。後者は、海上に延伸されたミサイル発射台と称される。(艦隊の対潜能力については別稿で述べる)

以上